

ポイント8 幼児期こそ難しいものを

幼児は漢文も読める

私も漢文を幼児に教えてみました。すると予想以上に幼児たちはこれに組み、意外なくらいよく覚え、読ませてみま

すと、よどみなく読むことがわかりました。かねて私は、わが国で初めてノーベル賞を受賞された故湯川秀樹博士が、満三歳を迎えた正月から、論語などの漢文の学習を始めたという事実について、「博士の才能は特別に優れていたから、三歳で漢文が読めたのだ」という一般の考え方は誤りで、「三歳から漢文を学習したので秀才になったのだ」と推察していました。そこでまた世界的な数学者・広中平祐氏が文化勲章を受けられた次の日、テレビでアナウンサーが、「先生は子供の頃から数学が大層良く出来たと伺っておりますが、学校の数学が易し過ぎてつまらなかったのでは？」と問い掛けられるや、否や「とんでもない。数学の時間が最も楽しく、最も意欲的だった」と答えていらっしゃいました。

「得意だから一所懸命にやる」というのが人間の本性であって、「不

得意だから頑張る」ということは、望ましいことではあるがなかなか出来ることではありません。

だから、私は、学校に進んで意欲的な学習の出来る子供にするために、幼児期から十分に学習させ、よく出来る、自信を持った子供にしてやりたいと思うのです。

コラム

部首 木

立ち木の象形。紙のない時代は木の札に字を書き、金属の道具のない時代は木を使った。だから記録に関するものや機械などを表すのに“木”を使う。

【機】 機微の意味の幾と木との会意形声字。その働きが微妙である“しかけ”を表した字。

【械】 戒と木との会意形声字。“罪人を戒めるための責め道具”のこと。かせとも言う。転じて“しかけ”ということで「機械」。